



世界湿地の日
2017年2月2日
湿地と防災・減災



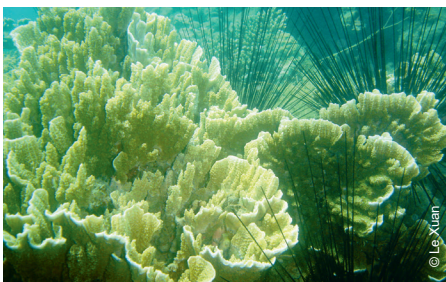
極端な気象現象への 対処に役立つ5つの湿地タイプ

1. マングローブ



マングローブは塩分耐性を持つ低木や高木で、熱帯地方の浅い海岸に生育します。たくさんの根が絡みついて海岸線を固定するため、マングローブ林の幅1kmあたり高潮が50cm抑えられ、サイクロンやハリケーン、津波などの衝撃を和らげます。マングローブ林や沿岸湿地は毎年1ヘクタール当たり15,161ドル相当の災害関連サービスを提供してくれます。マングローブはまた、二酸化炭素を貯えるので、気候変動対策にも役立ちます。

2. サンゴ礁



サンゴ礁は熱帯の浅い海で見られる硬い構造物で、サンゴポリプという小さな生物のコロニーによって形成されます。サンゴ礁には海洋生物の4分の1が生息し、エコツーリズム産業も支えています。また、沖合の波を緩和する役割も果たします。このように、極端な現象から守ってくれるサンゴ礁の働きは、1ヘクタール当たり年間33,556ドルに値します。また、バルバドスの西海岸にあるフォークストーン海洋公園のサンゴ礁再生に年間100万ドルを投じれば、この地の暴風雨被害を年間2,000万ドル減じることができるとも推定されています。

3. 河川と氾濫原



大小の河川は、長い時間をかけて蛇行して泥を堆積し、広い氾濫原を形成します。これらの氾濫原が、つながりのある内陸の湖沼と共に手付かずの状態に残されれば、それらすべてが巨大な貯水池の役割を果たします。突然の洪水でも、氾濫原は大きく広がってあふれた水を貯え、下流域の被害を抑えます。

長江：湿地生態系による「ソフトな」洪水対策

モンスーンによる洪水の起きやすい長江流域には、4億人が暮らしています。4,000人が亡くなり、250億ドルの被害が発生した1998年の暴風雨を契機として、中国政府は、自然洪水を管理するため「ソフト対策」を講じることを決めました。2,900平方km以上の氾濫原が再生され、130億立方メートルの水を貯えることができるようになりました。このような安全面の効果に加え、湖どうしが再びつながり、かつての環境が再生したその年のうちに、天然魚の水揚げが15%以上増加しました。



4. 内陸デルタ



川が外洋に出ることなく、広く平らな内陸湖に流れ込むとき、内陸デルタが形成されます。このような季節的な流れは、極端な乾燥地帯において、干ばつに対する強力な自然の安全機能を果たしています。ボツワナのオカバンゴデルタはおそらく最も有名な内陸デルタで、この地域が干上がる冬の間、ベルギーに匹敵する面積の土地を潤し、20万頭の大獣と400種類の鳥類にすまかを提供します。

5. 泥炭地



泥炭地は、水をたっぷりと湛えている土地で、分解された植物体が、長い時間をかけて、最大で30mもの深さまで堆積しています。地球上の陸地の3%は泥炭地で覆われています。重要なことは、泥炭地が貯蔵する二酸化炭素の量は、世界中の森林が貯蔵する量の合計値の2倍以上にもほり、泥炭地は、気候変動の影響を緩和するうえで、重要な役割を果たしているということです。



#WetlandsForOurFuture - #WorldWetlandsDay - www.worldwetlandsday.org

翻訳: 環境省

